

はじめに

本書は、タイトル通り、ギタリストのための譜面独習本です。正確には「音符」、つまり譜面上の「音の高低」と「リズム」をなんとか読めるようになることが目標です。従って、コードは一切出てきません。また、「フォルテ」、「ピアノ」などの強弱を示す記号や、「スタッカート」、「スラー」などのアクセント記号も出てきません。徹頭徹尾、「音符」を読むことに特化した教本となっています。

必要な知識や用語、及びエクササイズは、「現実的」な範疇に留めてあります。例えば、理論上64分音符というものは存在しますが、現実的には、出てくることはめったにありません。変拍子や、ポリリズムなども、「現実的」な範疇でエクササイズをご用意してあります。

第一章で譜面の基礎知識をさらっと学んだ後、エクササイズに入ります。前半はリズムだけの譜面を「タンタンタカタン」と言った風に歌うことで音符に慣れ、後半はギターを持って実際に音符を読む練習をします。その際、ポイントとなるのは、「間違えずに最後まで弾けたか」ということで、各譜例を音楽的に演奏出来たかどうかは問題としません。

本書には音源は付けていません。エクササイズの正解や、模範例として付けるべきかと迷ったのですが、音源があると、音を聴いて耳で覚えてからエクササイズを行ってしまう可能性が出てきます。本書の目的はあくまで「譜面を読む」力をつけることにあるので、本末転倒にならないために、あえて音源を排除しました。ご了承ください。

なにはともあれ、譜面は、読めないより読めた方がいいに決まっています。本書を何とか足がかりにして、読者の皆様が少しでも譜面に慣れ親しんでいただければ筆者としては幸いです。

2012年 著者

CONTENTS

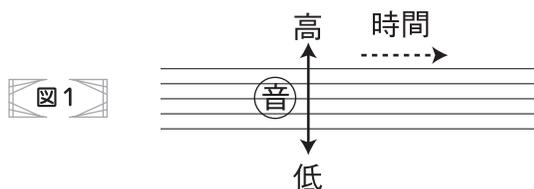
第一章 譜面の基礎知識 ————— 3	第七章 音程の基礎知識 ————— 30
1、小節と拍子	リーディングポジション ————— 31
2、音符記号と、それぞれの長さ — 5	リーディングのコツ4 譜面の下見 — 33
3、付点音符、付点休符、タイ ——— 7	EX8 ————— 34
第二章 拍と音符 ————— 8	第八章 音程の認識 ————— 36
リーディングのコツ1 ————— 10	EX9
第三章 音符と休符 ————— 11	第九章 臨時記号 ————— 39
リーディングのコツ2	リーディングポジション (クロマチック) — 40
イマジナリー・バーライン ——— 13	譜面上のルール ————— 41
EX3 ————— 14	EX10
第四章 付点音符、タイ ————— 18	第十章 キー ————— 43
リーディングのコツ3 $2+2=4$ ——— 19	EX11-a (キー F) ————— 44
EX5 ————— 20	EX11-b (キー G) ————— 45
第五章 3連符 ————— 23	実践練習 ————— 46
1拍3連	あとがき ————— 62
2拍3連 ————— 24	プロフィール ————— 63
EX6	
第六章 リズムのまとめ ————— 26	
EX7	

第一章 譜面の基礎知識

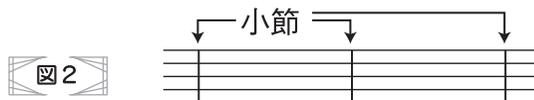
「譜面」とは、ご存知の様に、音やリズム、和音、各音の強弱、弾き方、あるいはそれらの進行を記号化したもので、楽譜、五線譜、スコアとも言います(本書では「譜面」で統一)。TAB などの特定の楽器にしか当てはまらないものは、本書では譜面とは呼びません。譜面にどれぐらいの情報を書き入れるかは、音楽のジャンルによって変わってきます。クラシックならあらゆる情報、あらゆる指示があらかじめ書かれてありますが、ジャズやロックには、コードと音符とテンポぐらいしか書いてありません。基本的な情報だけ掲載しておいて、『あとは演奏者各自で判断して演奏してくれ』という、ある種いい加減な譜面です。我々が扱う譜面は、後者になります。

1、小節と拍子

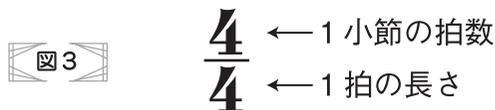
譜面には、別名にもある通り、5本の線が引いてあります。これは音の高低を区切る線だと考えて下さい。横軸が「時間」です。時間は左から右に流れていると考えて下さい。



この、5本の線を区切るのが「小節」です。



では、1小節の長さは一体どれほどなのでしょう？ここからちょっとだけややこしくなります。1小節の長さは、「拍子」で決まります。「拍子」は分数で表します。



最も一般的な拍子は、4/4です。分母は1拍の長さを表し、分子は、1小節中にその拍が出てくる回数を表します。つまり、4/4の場合は、1拍は4分音符(分母の4)、その4分音符が4回で1小節です(分子の4)、ということを表しています。

第二章 拍と音符

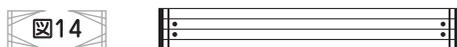
では、早速音符を読んでいきましょう。ただし、まだギターでは弾きません。手拍子で拍を叩き、音符は歌います。手拍子は各小節4回で、譜面上に記載している「・」がそれにあたります。ちなみに、この「・」は私が勝手に考案したもので、正規の記号ではありません。また、音符は全て「ファ」にしてありますが、見やすいからそうしているだけです。「ファ」の音で歌う必要はありません。

『音符を手拍子で叩いたらダメなのか?』と疑問に思う方もおられるでしょうが、やはり手拍子ではなく歌って下さい。なぜかという、本書の目標は、ギターで音符を弾くことです。音符を歌いながらギターを弾くことは可能ですが、手拍子しながらは無理です。ですから、ギターで弾くという目標につなげるために、まず音符を歌うことに慣れて貰いたいです。本書後半では、音符を歌いながらギターで弾きます。

EX1-1



1小節目は4分音符が4つ、2小節目は全音符が1つ。全音符1つで4分音符4つ分、つまり4拍分伸ばすので、これで1小節埋まります。なお、図14の記号は「繰り返し」を意味します。



EX1-1の2小節を何度も繰り返して練習して下さい。

さて、ここで重要なのは、全音符で音を伸ばしている間にも、きちんと拍を感じるということです。これは、歌うことで簡単に解決できます。



4分音符を「タン・タン・タン・タン」と歌います。これは手拍子と全く同じにならないといけません。全音符では、音を伸ばしている間「(ター・)アー・アー・アー」と拍を歌う様にします。こうすることで、拍を感じながら音を伸ばすことが出来ます。また、「タン・タン・タン・タン・ター・アー・アー・アー」と歌うことで、テンポもキープしやすくなります。ちなみに、これらは「ブレス」(息つき)を想定していません。実際に何度も繰り返して歌うと息が続かないので、適当に息つきをするか、声に出さずに歌うか、そのへんは自由に考えて行って下さい。なお、歌う言葉(「タンタン」、「ターアー」など)は本書の通りにする必要はありません。「トントン」でも「カンカン」でも何でもかまいません。今後出てくる歌の表記は、あくまで参考までに留めておいて下さい(ただし、歌うこと自体は絶対に必要ですのでこれは飛ばさないで下さい!)

第三章 音符と休符

では今度は、休符を読む練習をしましょう。今回は、4分音符と4分休符、8分音符と8分休符といった風に、同じ長さの音符と休符を組み合わせています。これらをまた、手拍子で拍を叩きながら音符(休符)を歌っていきます。

EX2-1



1小節目は4分音符です。2小節目は全休符なので、1小節まるまる休みます。ここで休符だからといって何もしないと、拍の感覚がなくなってしまうがちです。そうならないために、休符もしっかり歌うことが重要となるのです。この場合は1拍を「ウン」と歌います。

EX2-2



2小節目、最初の2拍は2分休符です。これも「ウン」と歌い、拍をしっかりと感じます。

EX2-3



2小節目は4分音符と4分休符が交互に出てきます。4分休符も「ウン」と歌います。

第四章 付点音符、タイ

本章では、付点音符、タイの読み方を重点的に学びます。付点音符やタイが読み辛い理由は、拍や小節をまたいで音が伸びるため、拍の感覚が混乱してしまうからです。

EX4-1



EX4-2



EX4-1,2は全く同じフレーズです。いずれも2拍目と4拍目では音が伸びたままとなっており、ここで拍を見失う可能性が高くなります。



これもやはり歌うことで慣れていくしかありません。「タータ・タータ」と付点4分音符を「タ」のみで歌うのではなく、2分音符や全音符の様に「ターア」と、それぞれの拍の頭を強調して歌います。そうすることで、常に拍を認識しながら音符を読むことが出来ます。

タイの場合は小節をまたぐことも可能ですが、これも同じように歌います。

EX4-3



2小節目アタマの「アー」をしっかり歌うことで拍を認識します。

第五章 3連符

本章では「3連符」、通称「3連(サンレン)」を学んでいきます。「3連」は、1拍に対してと2拍に対してのものがあります。

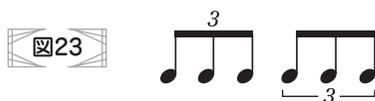
1拍3連

この場合、普通に「3連」と言います。名前の通り、1拍に3つの音が入ります。「3分音符」とは言わないのでご注意ください。

3連には、必ず次の様に「3」と指示が入るので、分かりやすいはずですが。



なおこの「3」の位置は、人によって、あるいは譜面作成ソフトによって以下のようにもなります。この様に、譜面の表記は必ずしも統一されているわけではないので、譜面を読む際は、ある程度の寛容性が必要です。



ここで『あれ?』と思った方は、なかなか鋭い。そう、これって8分音符ですよ。そうなんです。3連やその倍の6連には、それを表記する記号がありません。4分音符、8分音符、16分音符等に「3」とか「6」とかを付け足して表記します。

さて、1拍に3つの音が入るわけですが、人によってはイメージし辛いかもしれません。そこで、最初は拍に合わせた文字数の言葉を当てはめてみると分かりやすくなります。



1小節目は8分音符のみ、2小節目は3連符のみです。8分音符は1拍に音が二つなので、2文字の言葉を当てはめ、3連符には3文字の言葉を当てはめます。ここでは、「カニ」、「イクラ」とします。もちろんこの通りでなくてもかまいません。好きな言葉を当てはめてもらって結構です。手拍子しながら「カニカニカニカニ、イクライクライクラ」と歌って(?)みて、慣れてきたら今までの様に「タカタカ」と歌ってみてください。

第六章 リズムのまとめ

ここまでで、一通りのリズムパターンをこなしたと言えます。本章では、今まで出てきたリズムを網羅したまとめのエクササイズを行います。これまでのエクササイズは、いずれも4小節で、内容も各章のトピックが中心でしたが、今回は小節数やリズムをランダムに、より実践的なエクササイズとしています。

EX7



第七章 音程の基礎知識

では、本章から音程を含めた音符を読んで行きたいと思います。
我々ギタリストが読む譜面は、基本的にト音記号(図28)の譜面です。



この記号が最初に付いている場合、音の配置は次のようになります。



この様に、五線の上下にも臨時に線を並べ、音を記入することが可能です。なお、最初にト音記号でなく別の記号が付いている場合は、音の配置は上記と違ってきますので注意が必要です。これを一気に頭に入れようとするのではなく、まず「ド・ミ・ソ」の位置を把握します。



そしてそれらを基準にして音を探します。例えばシならドの一つ下、ラならソの一つ上、といった風に。こうすると、いちいち下から「ドレミファ…」と数えていなくても済みます。

なお、音名は「ドレミ」の他にアルファベットでも表記されます。そちらも覚えておきましょう。

ド=C レ=D ミ=E ファ=F ソ=G ラ=A シ=B

第八章 音程の認識

リーディングで難かしいのが、音程の変化を正しく認識することです。

音程は、「同じ」、「上がる」、「下がる」の3種類しか変化しません。最初から音程をきっちりと把握しようとはせずに、まずは大まかな流れを把握します。

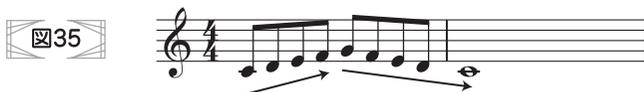


図35の場合は、上がって、下がるという緩やかな流れになっていますよね。



こちらは上下の変化が激しく、急です。

この様に、大まかな音の流れを先に把握した上で音符を読んでいくと、読み間違いもグンと減るはずですよ。

EX9

Musical notation for Exercise EX9, consisting of four staves of music. Each staff is in 4/4 time with a treble clef. Staff 1: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F4, E4, D4, C4. Staff 2: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F4, E4, D4, C4. Staff 3: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F4, E4, D4, C4. Staff 4: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F4, E4, D4, C4.

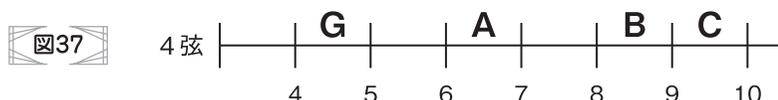
第九章 臨時記号

臨時記号とは、音符につく「 \sharp 」、「 \flat 」、「 \natural 」といった記号のことです。

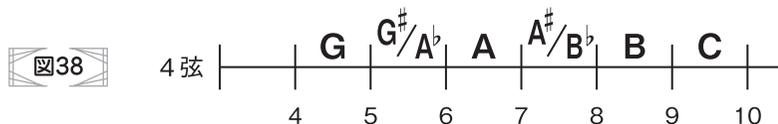
\sharp (シャープ) 半音上げる
 \flat (フラット) 半音下げる
 \natural (ナチュラル) \sharp 、 \flat を元に戻す。

ピアノでは臨時記号の付く音は、原則として黒鍵になっているので、視覚的に容易に判断することが可能ですが、ギターではそういった見分け方はできません。また、同じ音でも、同一弦上で弾くのか、あるいは弦移動して弾くのか、迷ってしまいがちです。ここでもリーディングポジションは役に立ってくれます。

例えば4弦を見てみましょう。リーディングポジションでは、4弦はG、A、B、Cです。

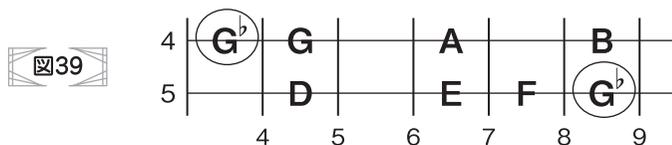


GとA、AとBには間がありますよね。ここがピアノで言う、黒鍵にあたります。

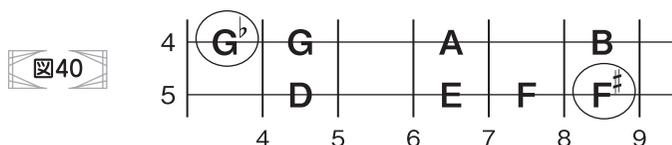


単純に考えて、同じ弦上でボディ側に1フレット動くとき「 \sharp 」、ヘッド側に1フレット動くとき「 \flat 」です。問題は、リーディングポジションでの各弦最低音と最高音に付いた臨時記号をどう処理するかです。

例えば、以下のポジションで $G\flat$ を弾く際、4弦4フレット、5弦9フレットという二つのポジションがあります。



これを、次の様に考えます。



音自体は全く同じなのですが、譜面上の記載が $G\flat$ なら4弦のGを半音下げる、 $F\sharp$ なら5弦のFを半音上げる。この様にあらかじめ決めておくと、リーディングの際迷うこともなくなります。

では、 \sharp 、 \flat を含めたリーディングポジションを改めて掲載しておきましょう。

第十章 キー

キーについて詳しくご説明すると、かなりのページを費やしてしまうため、本書ではごく簡単に済ませておきたいと思います。深く知りたい方は拙著「ギタリストのためのハーモニー」や、他の理論書を参照してください。

ずばり、キーとは「ホーム」、帰ってくる場所のことです。例えば、キーがCなら帰ってくる場所が、Cということです。ちなみに、西洋音楽では「キー」は12個あります。本書において重要なことは、それぞれのキーに付く臨時記号です。これはあらかじめ決まっているので書いておきましょう。

♯系 G、D、A、E、B
♭系 F、B♭、E♭、A♭、D♭、G♭

これに何も付かないCを足すと12個となります。それぞれ左から順番に一つずつ臨時記号が増えると考えてください。例えば、Fなら♭が一つ、Aなら♯が三つ。それが五線譜の最初に書いてあり、それを前提にして譜面を読まなくてはいけないのです。ここがリーディングの最大の難関と言ってもいいでしょう。

例えば、キーがFの場合、Bに♭が付きます。この♭は常に付いてくるので、いちいちそのつど臨時記号として書くのではなく、五線譜の最初にあらかじめ書いておきます。



4拍目のBには何も付いてませんが、これはB♭になります。オクターブが変わっても同じです。



図45も2拍目はB♭です。

この♭を打ち消すためには図46の様に♯が要ります。



Bが無条件に♭するのは1小節目だけではありません。何小節続いても同じです。今は1小節目だから分かりやすいのですが、小節が進んでいくにつれてついBに♭を付けるのをつい忘れてしまいます。もちろん、キーが変われば臨時記号の数も増えてきます。…といっても、本書ではそこまではやりません。練習として、♭一つのFと、♯一つのGのリーディングをやってみましょう。EX1～10がキーF、11～20がキーGです。キーFではBが♭、キーGではFが♯しています。

あとがき

ある生徒に譜面の読み方を教えようとして、ふと気づいたことがあります。それは、ギタリストのための読譜練習本があまりにも充実していない、というより、皆無であるということです。

確かに、エレクトリック・ギターは、譜面(TABではなく)が読めなくても弾くことができる楽器ですし、そのことがしばしばこの楽器に面白みを付与していることも事実です。しかしそうだとし、読譜練習本が充実している上で、それを学ぶか否かを各々がチョイスできる状態であるべきではないでしょうか？そうでなければギタリストは、気軽に譜面に親しむ機会が得られません。また、やたらとアカデミックな本が並んでいると、ギタリストの方でも反発心がおき、ジミヘンやサンタナを例にとり、強情に譜面というものを拒否してしまいます。

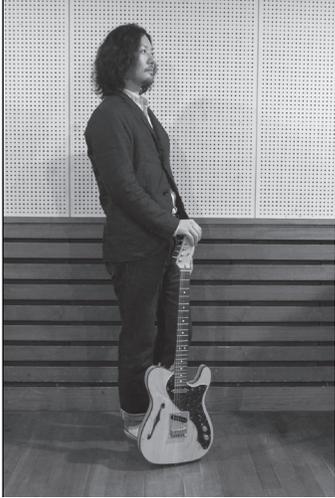
我々の演奏する音楽は、西洋音楽であり、それらを趣味的に楽しむだけにしても、やはり譜面は読めて損はしません。ジミヘンも実は譜面や音楽理論をきっちり学びたがっていたという証言もあります。

そういったことをかながみ、私は今回、ギタリストが気楽に譜面を学ぶことができる、ごくごく初歩的な譜面練習本を執筆しました。今回も、拙著に親しい方にはお馴染みの、噛み砕いた表現と、必要最低限の情報のみを掲載した実践的教本となっています。本書で少しでも譜面への理解が深まったのなら、筆者としては無常の喜びです。

最後に、拙著ではお馴染み、今回も可愛いイラストを提供してくれたハント鈴加ちゃん、編集者の藤田哲也氏にお礼を申し上げます。

2012年春、横浜にて。

八幡 謙介



■ 著者プロフィール

八幡 謙介（やはた けんすけ）

1978年京都生まれ。15歳でギターを手にする。十代では様々なバンドでライブハウスに出演。

2000年7月、バークリー音楽大学入学。主にRichie Hart(ギター)、Winston Maccaw(アンサンブル)、Mohamed Camara(アフリカンドラム)等に師事。また校外ではボストンを拠点とするラテンバンドBABALOOのサイドギタリストを約1年間勤め、アメリカ東海岸全域で幅広くライブを行う。

2003年、同校パフォーマンス科卒業(Professional Diploma)。11月、アメリカでの活動に見切りをつけ、ドイツ、ハンブルグに移住。Colon Language Centerにて3ヶ月間ドイツ語を学ぶ。

2004年、オランダ、アムステルダムに移住。市内ジャズクラブで週5日のセッション修行を約4ヶ月間行う。8月帰国。滋賀県守山市のBlue Music Studio音楽教室にて後進の指導にあたる傍ら、演奏活動や、奏法の研究を行う。

2009年、教則本の執筆を開始。

9月、『ギタリスト身体論 ～達人に学ぶ脱力奏法』を刊行。アマチュアからプロまで、多くのギタリストから反響を得る。

12月、武道家 日野晃氏と出会う。

2010年、日野晃氏主宰の舞台『Real Contact』に衝撃を受け、それまでの音楽を全て捨て、Freejazzを始める。

2011年10月、横浜に移住。神奈川県大川通にて八幡謙介ギター教室を主催。

Discography

2007年 「My Heart's Still There」 ソロ 自主制作(完売)

2008年 「Bossa De Poche N1」 Cafe Vanille 自主制作 (完売)

DVD

2012年 「ギタリスト身体論DVD」 中央アート出版社

Bibliography

2009年 「ギタリスト身体論」 中央アート出版社

2011年 「ギタリストのためのハーモニー」 中央アート出版社

「ギタリスト身体論2」 中央アート出版社

2012年 「J-POPのツボ」 中央アート出版社

ホームページ

ギターレッスン、書籍への質問、感想等は下記アドレスまで。

<http://ameblo.jp/kennsukeyahata/>

八幡謙介ギター教室in横浜

数々の革新的ギター教則本を執筆してきた筆者に、直接習ってみませんか？ 良心的な受講料と通いやすいシステムで、誰でも気軽にレッスンを受けることができます。

体格や筋力に頼らない奏法を教えていますので、女性や年配の方でも十分習得可能です。初心者や、まだギターを持っていないという方、音楽の専門知識が全くない方も大歓迎です。

・アクセス

JR横浜線大口駅から徒歩5分

京急本線子安駅から徒歩5分

・料金

入会金無料

60分4千円、120分8千円

学割(高校生以下)60分3千円、120分6千円

その他割引あり、詳しくはサイトで

・レッスン時間

12時～23時(最終22時～)、不定休

・オンラインレッスン

無料ネット電話<skype>を使ったオンラインレッスンです

60分4千円、前払い制

詳しくはサイトで

・システム

*FLEX制。

*毎月の予約日時を自由に選択できます。

*ギター、機材レンタル無料(アコギあり)

*仕事や学校帰りに毎回手ぶらで通えます

*完全プライベートレッスン

*自分のペースで安心して受講できます

・レッスン内容

生徒様のご要望に合わせて内容を決定します

*好きなアーティストの曲を練習したい

*教本の内容を詳しく教えてほしい

*アドリブができるようになりたい

*速弾きを教えてほしい

*アコギで弾き語りかしたい

詳しい情報、ご予約方法などは、**八幡謙介ギター教室**で検索!「横浜 ギター教室」でも上位に出ます)

*上記記載の内容に変更があるかもしれません。各自でサイトを見て再確認してください。

ギタリストがなんとか譜面を読めるようになるまで付き合う本

C130228-2(1.0x)

2012年6月30日 初版第1刷発行

2013年2月28日 第2刷発行

著 者：八幡 謙介
浄 書：ミルテ
表 紙：ハント鈴加
刷 刷：日本制作センター
製 本：日本制作センター



発 行 者：吉開 狭手臣

発 行 所：CAD 中央アート出版社

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-11-4

TEL 03-3861-2861(代表)

FAX 03-3861-2862

振替口座 00180-5-66324

小社への御意見・御希望は E-mail : info@chuoart.co.jp
ホームページ : <http://www.chuoart.co.jp>

ISBN978-4-8136-0695-6

本書の無断複製・転載を禁じます。
落丁・乱丁の際はお取替え致します。